

# OMU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OMU students



## プロフィール (Profile)

氏名 (Name) : 森長 響  
所属 (School) : 生命環境科学域応用生命科学類  
学年 (Grade) : B3

留学先 (Name of overseas institution) : タイ

留学期間 (study abroad period)  
2022/8/29~2022/9/3

記入日 (Date) 2022/9/14

## 留学レポート Study Abroad Report

### ● はじめに

私は、応用生命科学類植物バイオサイエンス課程と獣医学類の学生が参加できる食生産科学副専攻のプログラムの一環でタイへ行きました。この実習に参加するまでに学んできた国内の食の流通、安全に関する知識を活かし、タイではどのようにして食品が消費者へ提供されているのか、そして日本国内との違いはどのような点にあるのかについて知ることなどを目的とした実習でした。今回はその実習内容を報告したいと思います。

### ● カセサート大学での講義、農場見学

初日の夕方にタイへ到着し、二日目の朝に私たちはカセサート大学へ訪問させていただきました。この大学はもともと農業大学であり、農学、獣医学の分野において進んでいたので私たちにとって非常に勉強になる場所でした。ここで私たちは二人の先生方からの講義を受けた後、農場へ移動し見学させていただきました。大学に到着してまず驚いたのは日本では考えられないほどのキャンパスの広さです。もちろんそれに伴って学生の数も非常に多く、58000人以上の学生が在籍していると聞きました。統合後の大阪公立大学の学生数が16000人程度であることを考えると本当に驚きでした。講義はもちろん英語で行われ、講義を始める前に軽く自己紹介をしたのですが、私の拙い英語を笑顔で聞いてくださる先生方ばかりで本当にありがたかったです。講義の内容は聞き取れない部分があったのが悔しい部分であり、勉強が必要であると痛感しました。

農場も見学させていただきましたが、こちらは日本の農場と似たような部分を感じられ、基本的な畜産のやり方というのはそれほど差がないものなのかなと感じました。

昼食はカセサート大学の先生とご一緒させていただき、初めての本場のタイ料理について教えていただきました。



### ● ウエノタイさんでの工場見学

四日目は日系企業であるウエノタイさんで工場見学をさせていただきました。軽い会社紹介の後、見学をさせていただきましたが、設備がとてもしっかりしていること、そして衛生面での管理が厳しく行われていることが様々な点から感じ取れました。また、日系企業が海外で生産を行う利点は人件費の削減が主ですが、この工場は工業団地にあり、周囲にある企業も似たように人を雇うため、人員の確保が難しい所であるとのことでした。

ここで作られている糖を利用した商品は私たちが普段目にするものであり、安価でものを買える私たちの生活の背景を知ることができて良かったです。

### ● タマサート大学での講義

ウエノタイさんでの見学を終えた後、タマサート大学へ向かい、講義を受けました。この講義ではタイの食文化、衛生面での注意点についてお話させていただきました。カセサート大学と同様に面積が大きく、設備もそ

ろっており、タイでは日本と比較すると教育にお金が掛けられているのだと感じられました。

● タイプリマハムさんでの工場見学

最終日はタイプリマハムさんで工場見学をさせていただきました。ウエノタイさんと同様に日系企業であり、日本人が管理し、工場内で作業を行う人は現地の人々という形でした。工場内に入る際には専用のつなぎの服、消毒槽、度重なる手洗いや手袋装着といった準備が必要であり、本当に徹底された管理が行われているのだと強く感じました。



● 自由行動

三日目は一日中自由行動で、その他の日も見学などを終えてホテルに戻った後は自由でした。私は友人たちと王宮や三大寺院、ナイトマーケットへ行きました。

移動する際や観光地では日本人を含め海外からの観光客と思われる人が想像していたよりも多く、コロナウイルスの不況から元に戻りつつあることを感じられました。また、観光客なのでトゥクトゥクに乗せようとしてくる人が本当に多く、ぼったくりには注意が必要であることがよく分かりました。

ナイトマーケットでは、驚くほどの低価格でいろんなものが売られていたこと、なにかイベントがあるのかと思うほどの人の数に圧倒されましたが、意外とマーケット内はそれほど汚い部分はなく、思っていたより管理がなされているのだと感じました。



ナイトマーケットにて



ワットアルンにて

● 最後に

今回は実習の一環ということで、タイの工場見学や大学の講義といった今後できるかわからないような貴重な体験をできました。インターネットで調べたり人から話を聞いて学ぶこともできるのですが、やはり現地に行くと詳細な部分を肌で感じる事ができたのは良かったし、今後の人生で活かせたらいいなと思います。

日本人にとってタイは物価の安い国であるというイメージであることが多いと思います。実際に現地に行くとそれなりに物価は安かったのですが、見学した工場や農場で働いていた人々の給料を聞くと、タイですむ人々にとってはかなり生活が苦しいのではないかと感じる事が多くありました。また、バンコク市内を歩いているときや自由行動の日に街を観察していると貧富の差がはっきりと感じられ、これを克服するのはかなり時間がかかるだろうなと感じました。

そういったマイナスな部分も含めてタイについて知ることができて本当によかったです。